

新  
いまあしん

今  
創人

「アストロノーツ・フ  
アーマー 庭から昇った  
ロケット雲」という映画  
がある。宇宙飛行士を目  
指していた主人公が、や  
むを得ない理由で実家の  
農園を継ぐことになっ  
た。だが、夢をあきらめ  
られず、自分でロケット  
を作って宇宙を目指すと  
いう内容だ。この主人公  
の姿が自身に重なる。

## 緒川 修治さん

PDエアロスペース社長

おがわ・しゅうじ 福井大工卒後、  
三菱重工業で航空機開発にかかわる。  
01年に東北大学院で航空宇宙工学の  
修士を取得し、その後アイシン精機入  
社。07年に起業。秋田大の講師も務め  
る。愛知県出身、39歳。

# 日本初の宇宙旅行実現を



合格だった。そこで夢を  
切り替えた。「宇宙機を  
開発し、人を乗せて高度  
100キロまで飛ぶ宇宙  
旅行の実現」へと。  
新たな夢には、ある出

来事が大きく影響してい  
る。それが、04年に米国  
で開かれた民間による有  
人宇宙機コンテスト「X  
プライズ」だ。わずか数  
十人の企業が高度100  
キロに達する宇宙機開発  
に成功し、見事、優勝賞  
金1000万円を獲得し  
た。このニュースは「大  
きな衝撃だった」。

そして、「日本でもで  
きるはずだ」と、07年に  
会社を設立。08年に試作  
機を製作し、高度10キロ  
後の飛行に成功した。だ  
が、目標とする宇宙機に  
は程遠く、必要な開発資  
金も90億円と膨大だ。単  
独で夢を実現することに  
難しさを感じていた。  
そんな中、夢に共感し  
て、共同開発、資金提供  
をしてくれる仲間が現れ  
始めた。有力大学、大手  
企業など「心強い仲間」  
だ。夢が一步前進した。  
米国ではすでに、Xア  
プライズで優勝した宇宙機  
の改良機を使った宇宙旅  
行が20万ドルで販売され  
ている。自社では「これよ  
りも大幅に安い料金で実  
現する」考えた。そして、  
初飛行の目標は「201  
4年のクリスマス」。ロ  
マンチックな目に夢の実  
現を目指す。

(文・写真、名古屋・  
鈴木慶太)